

## 学生の皆さん、保護者の皆様へ:2020年度後期授業について

2020年07月27日

学長 齊藤 言子

副学長・教務部長 立石 浩一

新型コロナウイルス感染症の問題を受け、昨年度末以来、本学より、授業日程の変更、2020年度前期授業の遠隔化など、様々な情報発信や願いをしておりました。学生の皆さん、保護者の皆様には、本来キャンパスにおいて得られるべきであった学びをディスプレイとインターネットを通じてのものにせざるを得ない状況の中、ご対応とご協力をいただき、心より感謝を申し上げます。

本学では、6月以降順次、実験・実習、音楽レッスンなどを伴う授業について段階的にキャンパスにおける指導を再開し、大学院生を対象に予約制での図書館利用を許可するなど、少しずつではありますが、キャンパスを本来の姿に戻すための試みをしてまいりました。これについては、8月7日一杯までの登校禁止措置が終了後も、順次進めて参りたいと思っております。

一方で、緊急事態宣言の解除後、新型コロナウイルス感染者数が再び増加に転じるなど、今年度中の事態収束が見通せる状況には残念ながら無い、難しい状況も現実としてはございます。そのような状況の中、学生の皆さんに後期をどう過ごせば良いのか、その準備をしてもらわなくてはならない、そのための方針があまりにぎりぎりになってしまうことはかえって混乱を招くという判断の下、ここに、再び緊急事態宣言が出るようなことが無かった場合の後期の方針をお示ししたいと思います。

まずは、後期授業ですが、現在対面授業として行っております、人間科学部の実験・実習授業、音楽学部のレッスンを伴う授業については、継続して対面で行ってまいります。こちらにつきましては、後期は年度末が控えているという事情もあり、関連学科・学部において、後期の開講授業について現在慎重にご検討いただいております。情報が明確になり次第、学生の皆さんには Universal Passport などを通じて、また関連学科、学部からお知らせいたします。

その他の授業につきましては、引き続き原則は前期同様遠隔授業といたし、学生の皆さん、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。ただし、一部資格などに関係する科目については、部分的に対面での指導を現在でも許可しておりますので、これについても、情報が分かり次第お知らせいたします。慎重に検討いたしました結果、いわゆる「三密」を避けつつ広範囲に教室での対面授業をすることは大変難しく、このような結論に至らざるを得ませんでした。ご理解とご協力をお願いいたします。

これに伴いまして、登録日程が学修便覧に記載のものと異なっております。**Universal Passport**をご確認の上、間違いの無いようにしてください。

キャンパスに来ることが叶わない状況は、大学としても本意ではありません。また、学生の皆さん、特に入学されたばかりの1年生の皆さんのお気持ちを考えると、大変心苦しく思います。しかし、キャンパス内の活動のみならず、通学中、また学外での活動も含め、感染リスクを可能な限り低減することが大学としての義務であり、学生の皆さんおよび教職員そしてそのご家族の皆さんの安全を確保する必要があるという観点の下、今回のような結論に至りました。

このような状況ではありますが、図書館の利用のさらなる拡充、課外活動、寮など、本来キャンパスで得られるべきものをどのように得ていただくかについては、感染のリスクを減らすということへの細心の注意を払いつつ、現在慎重に検討しているところです。こちらにつきましても、本学ホームページ、関連各部署のウェブサイトなどを通し、確定し次第お知らせする予定であります。

また、教室をはじめとする学内での感染防止の対策につきましても、少しずつではありますが、進めております。状況は随時お知らせいたします。

なお、万が一再び緊急事態宣言が出ました場合は、実験・実習・レッスンなどにつきましても、原則遠隔対応とならざるを得ませんことご了承ください。

学生の皆さんの学修を対面授業と同じ、あるいはそれ以上に確保することを、教職員は一体となって目指しております。コロナ後の未来をどのように創っていくか、今本学はまさに分水嶺に立っている状況であると認識しております。学修は教職員だけでなく、学生の皆さん、保護者の皆様との協働とならないと成り立ちません。この大変な時を乗り越えるべく、重ねて、ご理解とご協力をお願い申し上げます。